

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	薬業科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	薬理学 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	薬業科1年生		学期及び曜時間	後期	教室名	
担 当 教 員	水口博之	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
薬は標的分子に作用してその薬理作用を発揮します。薬理学Iでは標的分子を中心に、薬がどのような分子に作用して、その作用がどのように病気の回復につながるのかを学んでいきます。						
《成績評価の方法と基準》						
学期末テストと出席状況による						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進③ 医学書院						
《授業外における学習方法》						
指定した教科書で予習を行うとともに、配布資料を元に復習をしっかりと行ってください						
《履修に当たっての留意点》						
出席を大切にしてください						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	薬の歴史及び薬が作用するしくみについて理解できる		薬理学 疾病のなりたちと 回復の促進3	指定した教科書で予習を行う	
	各コマにおける授業予定	イントロダクション、薬の歴史、薬が作用するしくみ				
第2回	授業を通じての到達目標	アゴニスト(刺激薬)、アンタゴニスト(遮断薬)、インバースアゴニストについて理解できる		薬理学 疾病のなりたちと 回復の促進3	指定した教科書で予習を行うとともに、配布資料を元に復習を行う	
	各コマにおける授業予定	薬物の作用点: 受容体1 アゴニスト(刺激薬)、アンタゴニスト(遮断薬)、インバースアゴニスト				
第3回	授業を通じての到達目標	薬の主たる作用点であるGタンパク質共役型受容体の構造、細胞内情伝達シグナルについて理解できる		薬理学 疾病のなりたちと 回復の促進3	指定した教科書で予習を行うとともに、配布資料を元に復習を行う	
	各コマにおける授業予定	薬物の作用点: 受容体2 Gタンパク質共役型受容体(総論)				
第4回	授業を通じての到達目標	Gタンパク質共役型受容体のうちアドレナリン受容体、アセチルコリン受容体、ドパミン受容体について理解できる		薬理学 疾病のなりたちと 回復の促進3	指定した教科書で予習を行うとともに、配布資料を元に復習を行う	
	各コマにおける授業予定	薬物の作用点: 受容体3-1 Gタンパク質共役型受容体(各論) アドレナリン受容体、アセチルコリン受容体、ドパミン受容体				
第5回	授業を通じての到達目標	Gタンパク質共役型受容体のうちヒスタミン受容体、セロトニン受容体、プロスタグランジン受容体について理解できる		薬理学 疾病のなりたちと 回復の促進3	指定した教科書で予習を行うとともに、配布資料を元に復習を行う	
	各コマにおける授業予定	薬物の作用点: 受容体3-2 Gタンパク質共役型受容体(各論) ヒスタミン受容体、セロトニン受容体、プロスタグランジン受容体				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	薬の主たる作用点である受容体のうちイオンチャンネル内蔵型受容体、1回幕貫通型受容体、核内受容体について理解できる	薬理学 疾病のなりたちと回復の促進3	指定した教科書で予習を行うとともに、配布資料を元に復習を行う
		各コマにおける授業予定	薬物の作用点:受容体4 イオンチャンネル内蔵型受容体、1回幕貫通型受容体、核内受容体		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	薬の主たる作用点である酵素及びトランスポーターについて理解できる	薬理学 疾病のなりたちと回復の促進3	指定した教科書で予習を行うとともに、配布資料を元に復習を行う
		各コマにおける授業予定	薬物の作用点:酵素、トランスポーター		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	薬物の依存性と耐性及び鎮痛薬について理解できる	薬理学 疾病のなりたちと回復の促進3	指定した教科書で予習を行うとともに、配布資料を元に復習を行う
		各コマにおける授業予定	薬物の依存性と耐性、鎮痛薬、オピオイド治療(モルヒネ)、三段階除痛ラダー		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	薬が体内に入ってから作用し、代謝され、排泄されるまでの経緯について理解できる	薬理学 疾病のなりたちと回復の促進3	指定した教科書で予習を行うとともに、配布資料を元に復習を行う
		各コマにおける授業予定	薬物動態と薬効		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	感染症治療薬のうち抗菌薬の作用機序について理解できる	薬理学 疾病のなりたちと回復の促進3	指定した教科書で予習を行うとともに、配布資料を元に復習を行う
		各コマにおける授業予定	感染症治療薬 1		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	感染症治療薬のうち抗ウイルス薬及び抗真菌薬の作用機序について理解できる	薬理学 疾病のなりたちと回復の促進3	指定した教科書で予習を行うとともに、配布資料を元に復習を行う
		各コマにおける授業予定	感染症治療薬 2		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	抗がん薬についてその作用機序及び副作用について理解できる	薬理学 疾病のなりたちと回復の促進3	指定した教科書で予習を行うとともに、配布資料を元に復習を行う
		各コマにおける授業予定	抗がん薬		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	免疫治療薬及び抗アレルギー薬についてその作用機序及び副作用について理解できる	薬理学 疾病のなりたちと回復の促進3	指定した教科書で予習を行うとともに、配布資料を元に復習を行う
		各コマにおける授業予定	免疫治療薬、抗アレルギー薬		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	演習問題を通してこれまでに習った薬についての理解を深め問題を解くことができるようになる。	薬理学 疾病のなりたちと回復の促進3	指定した教科書で予習を行うとともに、配布資料を元に復習を行う
		各コマにおける授業予定	まとめ		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	演習問題を通してこれまでに習った薬についての理解を深め、問題をとくことができるようになる。	薬理学 疾病のなりたちと回復の促進3	
		各コマにおける授業予定	総まとめ		